

2016年3月24日

株式会社 富士キメラ総研  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
12-5 小伝馬町YSビル  
TEL. 03-3664-5839 FAX. 03-3661-1414  
<http://www.fcr.co.jp/>

広報部 03-3664-5697  
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

「平昌五輪」「東京五輪」の開催を控え注目が集まる高精細動画像  
4K・8K<sup>※</sup>の関連機器やデバイスなどの世界市場を調査

※8K以上

—2025年世界市場予測（2015年比）—

■4K・8K対応機器は1兆8,572億円（4.6倍）に。

・・・欧米、日本、韓国が先行し、放送分野や医療分野で需要増加

マーケティング&コンサルテーションの株式会社富士キメラ総研（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839）は、世界的に普及が期待される4K・8Kの高精細動画像対応に向け、開発が進む関連機器／システム、主要デバイス、有望業界／用途を調査した。

その結果を報告書「4K・8Kビジネス／市場の全貌 2016」にまとめた。

この報告書では、表示機器10品目、入力／撮像機器6品目、記録／再生／その他機器6品目、キーデバイス10品目の市場動向に加え、有望業界／用途7分野における動画像利活用状況やニーズ分析、市場予測を行い、高精細画像ビジネスの実態を明らかにした。

<調査結果の概要>

■4K・8K対応機器の世界市場

カテゴリー	2015年	2025年予測	2015年比
表示	53兆1,338億円	58兆6,250億円	110.3%
4K	3兆5,202億円	12兆5,129億円	3.6倍
8K以上	4億円	1兆1,621億円	2905.3倍
入力／撮像	3兆5,182億円	5兆7,858億円	164.5%
4K	1,611億円	1兆8,499億円	11.5倍
8K以上	僅少	2,023億円	—
記録／再生／その他	1兆6,900億円	1兆4,950億円	88.5%
4K	45億円	5,220億円	116.0倍
8K以上	—	6,080億円	—
合計	58兆3,420億円	65兆9,057億円	113.0%
4K	3兆6,858億円	14兆8,848億円	4.0倍
8K以上	4億円	1兆9,724億円	4931.0倍

※四捨五入しているため合計と合致しない場合がある

世界市場では、欧米、日本、中国などが4K・8K対応機器の主戦場となっており、さまざまな機器が4K対応になっている。欧米、アジア各国では、2014年より「UHD放送」の実証実験や試験放送が相次いで行われており、徐々に民間放送事業者による実用サービスが開始されているが、国策として4K・8K放送に対し、積極的に取り組んでいるのは、日本と韓国のみである。韓国は、他国に先駆けて2014年にIPTV／CATVによる4Kサービスの商用化を、地上波においても試験放送やライブ中継を開始している。「平昌五輪」に向け2017年に放送を開始し、2021年までに全国サービス化する予定である。8K対応機器に関しては日本、韓国など限られた地域が主体となっていくとみられ、「平昌五輪」「東京五輪」に向けて2018年から普及が進むことで、技術の向上が予想される。

表示機器では、4K化が順調に進んでいる。短期的には特にTVが4K化をけん引するとみられる。2016年以降はホーム／ビジネスプロジェクターや放送局用モニターの4K化が進み、8Kは放送局用モニターにおいて対応機器の比率が高まると予想される。

入力／撮像機器では、業務用ビデオカメラ、デジタルビデオカメラ、ドローン、外科内視鏡で4K化が先行して

いる。8K化は、放送環境の整備に伴い業務用ビデオカメラが先行すると予想される。

記録／再生／その他機器では、民生用BDレコーダーにおいて徐々に4K化が進むとみられる。据置型ゲーム機は、2018年に4K対応機器が主流になり、2025年には8K対応機器が主流になると予想される。

国内市場では、2015年にTV、スマートフォン、ノートPCなどが4K化をけん引した。4K対応機器の普及とともに4Kコンテンツも徐々に増加していくとみられる。さらに医療機関、セキュリティ用途での導入も増えるとみられる。

#### ■4K・8K関連デバイスの世界市場

大型ディスプレイは、LCD、OLEDともに4K化が進むが、特にOLEDは、ハイエンドTV向けで4K化が進み、LCDは8K化も進むとみられる。

中小型ディスプレイは、LCDにおいて4K対応機器比率が拡大し、OLEDについては2017年頃にハイエンドスマートフォンでの採用が増加するとみられる。

DRAMは、スマートフォンやTV向けの映像処理向上に伴い搭載容量が増加し、市場が拡大するとみられる。

QDコンポーネントは、4K以上のTVが主な用途であり、4K・8K-TVの普及に伴い市場が拡大するとみられる。

#### <注目の市場（用途）>

##### ◆放送局／プロダクション関連の世界市場

主要機器	2015年	2025年予測	2015年比
業務用ビデオカメラ	1,518億円	1,526億円	100.5%
4K以上	371億円	1,344億円	3.6倍
放送局用モニター	455億円	570億円	125.3%
4K以上	10億円	500億円	50.0倍

世界市場では、業務用ビデオカメラや周辺機器を含め4K化が進んでおり、さらに4Kパネルの低価格化により、2017年以降は4Kモニターが増加するとみられる。また、日本や韓国など8K実用放送開始を背景に、マスターモニターを中心に4Kから8Kへシフトが進むと予想される。

国内市場でも4K化が進み、8K実用放送開始とともに8Kへのシフトも進むとみられる。業務用ビデオカメラは、「東京五輪」開催を背景に、4K対応機器の需要増加と2017年以降のリプレイス需要により市場拡大が予想される。

##### ◆医療関連の世界市場

主要機器	2015年	2025年予測	2015年比
医療用ディスプレイ	929億円	1,226億円	132.0%
4K以上	4億円	43億円	17.8倍
手術用顕微鏡システム	440億円	800億円	181.8%
4K以上	—	256億円	—
外科内視鏡	4,180億円	7,593億円	181.7%
4K以上	僅少	1710億円	—

世界市場では、医療用ディスプレイの4K・8K需要の中心は日本、北米、欧州、韓国などとみられる。手術用顕微鏡システムでは、4Kや3Dを活用した機器の需要が日本、北米、欧州などの先進国が中心で、日本や北米では、今後4K・3Dを活用した手術に用いられるとみられる。4K機器は先進国に浸透後、アジアやその他地域でも導入が進むと予測される。

国内市場では、4K・8K対応カメラ／ディスプレイは、肉眼視では困難な極細の縫糸や血管を見ることが可能なため、効率的な手術が期待できる。手術用顕微鏡システムは、眼科や外科で需要がある。コンバーターやディスプレイ、レコーダーなどの周辺機器の製品化が遅れているため、4K・8K対応機器普及のためには、各種規格の

標準化が求められる。また、4K・8K対応機器のユーザーはまずは大学病院など大規模医療施設が中心となるため、市場は徐々に拡大していくと予想される。

<調査対象>

機器市場		
表示	パブリックディスプレイ 医療用ディスプレイ 放送局用モニター TV ビジネスプロジェクター	ホームプロジェクター フルカラーLED ディスプレイ スマートフォン ノートPC ヘッドマウントディスプレイ
入力/撮像	業務用ビデオカメラ デジタルビデオカメラ 手術用顕微鏡システム	外科内視鏡 ドローン 監視カメラ
記録/再生/その他	民生用レコーダー 据置型ゲーム機 放送業務用レコーダー/VTR	エンコーダー/デコーダー マトリクススイッチャー グラフィックボード/チップ
デバイス市場		
大型ディスプレイ 中小型ディスプレイ イメージセンサー TV用 SoC	レンズユニット DRAM コネクタ 通信用ケーブル	QD コンポーネント ヒートパイプ
業界/用途		
放送局/プロダクション 医療機関 VR/AR	映像セキュリティ デジタルシネマ プラネタリウム	デジタルサイネージ

<調査方法>富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査・分析

<調査期間>2015年12月~2016年2月

以上

資料タイトル:「4K・8Kビジネス/市場の全貌 2016」

体 裁: A4判 265頁

価 格: 150,000円+税

CD-ROM付価格 160,000円+税

発 行 所: 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル

TEL: 03-3664-5839 (代) FAX: 03-3661-1414

<http://www.fcr.co.jp/>

e-mail: [info@fcr.co.jp](mailto:info@fcr.co.jp)

調 査・編 集: 研究開発本部 第一研究開発部門

TEL: 03-3664-5839 FAX: 03-3661-1414

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>